



な が れ

確かな一步の積み重ね

副校長 深尾 剛

先日、和裁の先生が、5年生の家庭科の授業に講師として来て下さいました。授業のはじめに、実際に布を縫うところを実演してくれたのですが、その時に子供たちから歓声が上がりました。ゆったりと構えて座り手元の針はほとんど動いていないのですが、気が付くといつの間にか布が縫いあがっていたからです。何千回、何万回と布を縫う中で身に付いた自然体で無駄のない動きに、私は美しさを感じました。

興味津々の子供たちからは様々な質問がありましたが、「なんでそんなにうまく縫えるの。」と聞かれた時、和裁の先生は厳しく教えられたこと、同じことを繰り返し行い身に付けたことを話していました。「毎日何時間も縫っていてあきないの。」という言葉に、「そりゃあきるさ、でもね…」と言って、続けることの大切さを子供たちに話していました。一般的に「同じことの繰り返し」というと「単調でつまらない」と捉えられますが、先生の言葉から「同じこと→確かな一歩」「繰り返し→積み重ね」と言っているように聞こえました。苦しい努力の積み重ねがあったことに触れての言葉だったと思います。



継続することは力になります。大人はそれを知っていますが、子供はそれをよく分かってはいないと思います。頑張っていることや努力は目に見えませんが、また頑張っているけれどもその成果はなかなか現れないということもあります。当たり前のことですが、一日努力すると一日分の上達、成長が現れるわけではありません。しかし、ある時を境に「ぐん」と成長曲線が伸びることがあります。例えば、自転車の練習でなかなか乗れずにいたのにある日サッと乗れるようになる。こんな経験をしたことはないでしょうか。必ずしも努力に比例して成長は見られるのではなく、成長は加速度的に訪れるということです。元テニスプレイヤーの松岡修造さんは、「100回叩けば壊れる壁がある。でもみんな何回叩けば壊れるか分からないから、90回まで来ていても途中であきらめてしまう。」あきらめてしまえば、努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまうということを言っています。ですから、子供たちには取り組みの成果が段階的にみられるようにしたり、たくさんの成功体験をさせたりして、「力」が付いたことを「実感」させていかなければならないと考えています。

90回、90ページ、90問・・・、100を目前にしている時期の子供たちへの支援は、特に大切になるのではないかと思います。学校だより発行の本日9月28日は、今年度が始まってから97日目になります。100日を目前にした今、学校での授業、家庭学習、あいさつ等、取り組んでいる活動について、子供たちの変化をさらに細かく見取りながら成長を支えていきたいと思えます。今後も、学んだことや体験を生かして積み重ねていけるように、また、うまくいかないことや失敗したことには向き合ってどのようにしたら解決できるかを考えていけるように、毎日の学習を大切にして子供たちを育てていきたいと思えます。

10月の行事予定

1	日	都民の日 避難所訓練(9:00~11:00)	17	火	給食試食会 放課後学習教室 日光移動教室26年
2	月	全校朝会 安全指導 委員会活動 歯磨き週間始	18	水	B時程4校時授業13:10下校 日光移動教室36年
3	火	避難所訓練 環境学習4年 体験学習「救急救命法」6年 体験学習「囲碁」5年 放課後学習教室	19	木	校外学習1・2年 体験学習「筆道」5年
4	水	B時程4校時授業13:10下校 1年研究授業5校時 下校14:25	20	金	全校遠足予備日 道路側花壇環境整備 15:25~17:00
5	木	戸三小漢字検定① 体験学習「着付け」5年	21	土	
6	金	なわとび週間終 漱石紙芝居1~6年 校外学習3年 放課後ゼミ	22	日	
7	土	親子料理教室①	23	月	全校朝会 クラブ活動 道徳週間始 地或協働学校重宝協議会 15:30~
8	日	親子料理教室②	24	火	地或青帯活動(3・4校時) 体験学習「筆道」5年 放課後学習教室
9	月	体育の日	25	水	B時程4校時授業13:10下校 生活科校外学習1年 4年研究授業5校時 下校14:25
10	火	東京合唱協会公演1~6年 放課後学習教室	26	木	
11	水	B時程4校時授業13:10下校	27	金	道徳週間終
12	木		28	土	
13	金	移動教室前準備36年	29	日	
14	土		30	月	全校朝会 読書週間始 津波の語り部1~6年 クラブ活動
15	日		31	火	神田川ファンクラブ4年
16	月	全校朝会 親子レクリエーション3年 日光移動教室①6年			

学年の窓 ー2年ー

2年担任 江蔵 弘文

「ロケットポンを作りました。トイレットペーパーのしんをみじかくしたら、もっととぶようになりました。」
「友達に教えてもらって、ヨットカーのトレーの付け方を反対にしたらく動くようになりました。」・・・生活科「うごくおもちゃをつくろう」での振り返りです。

子供たちは、豊かな発想で、いろいろ工夫しておもちゃを作りました。うまくいかないこともたくさんありますが、自分たちで「より高く」「より速く」を目指して、友達と協力して、自分のおもちゃをパワーアップさせました。代わりになるものを見つける、手元にあるもので工夫して作る、その繰り返しが、思考力を高めるのだと確信しました。

2年生は「自分たちで課題を設定し、友達と協力して解決していくこと。」を目標に学習を進めてきました。もともと、友達と仲良く協力できる2年生です。夏を過ぎ、自分達で主体的に課題に取り組む力が、少しずつついてきたなと感じています。

今後も、一人一人のめあてと振り返りを大切にしながら、大きく力を伸ばしていけるよう支援してまいります。

まなびの教室

特別支援教室専門員 保坂 隆夫

子供たちは一人一人個性があります。その子に合った学び方で学習していく場合、「まなびの教室」で巡回指導教員よりその指導が受けられます。

本校では、「まなびの教室」の授業は、毎週水曜日の午前中に行われ、1・2時間目に下学年、3・4時間目には上学年が学習します。内容的には、前半の1時間は個別指導形態をとっています。“スピーチ”“聴き取りワーク”“工作”等、子供たちがそれぞれ自分に合った学びを、専門の先生と一対一でできるようプログラムが組まれています。後半の1時間はグループ活動となり、意思表示能力や意見の認め合いを高めるコミュニケーション活動と、基礎的な運動能力の向上と運動経験の拡大を図る運動活動をしています。

これらの活動を通して「まなびの教室」は、子供たちが学校生活において健やかな成長を図っていくことを目指しています。特別支援教室専門員としては、こうした活動が円滑に行えるよう、戸三小の先生および巡回指導教員と連絡調整を密にとっています。

子供たちの変化に寄り添う

養護教諭 飯岡 さや香

1学期に実施した学校保健委員会のテーマ募集のアンケートに御協力いただき、ありがとうございました。集計の結果「思春期の子供たちの心に寄り添う関わり方」についてお話を聞いてみたい、というお声が多かったため、今年度はこのテーマでの開催に向けて計画をすすめております。

思春期は、児童期から青年期への移行期とされ、どの子供たちも通っていく時期です。思春期には体だけでなく、心にも大きな変化が起こります。不安になったり悩んだり…。感情の変化から、怒りっぽくなったり不安定になったりもします。

しかしそれは、大人へ近付いていくための大切な一歩です。その一歩が子供たちの将来の糧になるよう手助けをすることは、私たち大人の大切な役割でもあります。

では、どのように手助けしたらよいのでしょうか。子供たちの気持ちや変化に寄り添った関わり方とは…?専門家の先生をお招きし、保護者の方々と一緒に考えていきたいと思います。

開催は来年の1月18日(木)です。御多用のことと存じますが、ぜひ御参加ください。